

「スペイン財政赤字 48 %減 - 1 ~ 7 月歳出削減進む - 」日本経済新聞 2010 年 9 月 1 日朝刊を読む

## スペイン、サパテロ政権に学ぼう

- 1 . スペイン政府は 31 日、同国の 1 ~ 7 月の財政赤字は 257 億 7400 万ユーロ(約 2 兆 7500 億円)と前年同期比で 48.2 %減ったと発表した。肥大化した財政赤字で信用不安にさらされた同国は緊縮財政政策を導入しており、赤字は 4 月以降、減少傾向が続いている。
- 2 . 公共工事の凍結など緊急財政再建策の実行により、1 ~ 7 月の歳出は前年同期比で 2.5 %減った。一方で所得税収などが伸び、歳入は同 10.4 %増えた。スペインは 7 月 1 日、付加価値税(日本の消費税に相当)の税率を 16 %から 18 %に引き上げた。
- 3 . スペイン政府の財政赤字は 2009 年は国内総生産(GDP)の 11.2 %に達し、ユーロ不安の一因となった。政府はこれを 11 年に 6 %、13 年には欧州連合(EU)が求める 3 %まで圧縮する目標を掲げている。今年 1 ~ 7 月の財政赤字幅は、GDP の約 2.4 %に相当する。

## [コメント]

ギリシャの次はスペイン、イタリア、ポルトガルだと世界中から注目を集めていたスペインが、ようやく本気になり始めた。7 日前の 3 月 11 日、総選挙の数日前にマドリッド・アトーチャ駅で爆破事件が発生、その犯人を真犯人でないと知りながらバスク地方の反政府勢力 ETA にしたアスナール首相。その不正義に失望して、当選目当てに「子ども手当」のみならず「主婦手当」をマニフェストに入れたがほとんど相手にされなかったサパテロ氏を、当選確実のアスナール氏の代わりに選んだスペイン国民。その国民の期待に応えようと、人気取りのためにマニフェストの第一に掲げた「子ども手当」や「主婦手当」のことなど全く気にもせずに現実路線を選んだサパテロ首相。国民の誰一人として公約違反を責めていないと言う。なぜ、当選確実で人気の高かったアスナール氏を選ばず、人気取りのために「子ども手当」や「主婦手当」という非現実的な政策を掲げたサパテロ氏を選んだか。ETA はそれまでバスなどの爆破事件を頻繁に引き起こす非常に危険な団体ではあるけれども、やってもいないアトーチャ駅の爆破を、やっていないことを知りながら ETA のせいにしたアスナール氏の道義的責任、不正義をスペイン国民は問うたためだ。スペイン国民は極めて政治的に成熟した国民であると、その当時、私は尊敬すらした。リップサービス見え見えの「子ども手当」や「主婦手当」は不問に付し、サパテロ氏の現実的な政策を支持し、今回の経費削減も許容しているスペイン国民も尊敬に値する。

日本国民も、スペイン国民から政治的な成熟性をもっと学ぶべきかと痛感する。余りにも国民を甘く見ている政治家。余りにも批判的思考能力が欠如しているマスコミ。余りにも政治的に未成熟な国民。このままでは日本は本当に沈没する。それでいいのか。